

2. 植林などによる保水、土砂流入防止機能の向上

流域の保水能力と土砂流入防止機能の向上のため、湿原周辺の遊休地や流域の荒廃地などへの植林を推進すべきである。

施策の背景

- 1) 流域全体の裸地や荒廃地のうち、当面の目標として約2割減少させるものとし、その効果を検証する。



- 2) やむを得ず発生する裸地については、土砂流出防止対策を講ずるよう規制・指導するものとする。

裸地や荒廃地は無い方が望ましいが、現実問題として、様々な事情により発生、あるいは、残ってしまう裸地もあると考えた。

そのことを踏まえ、釧路湿原の保全に対するの初期の基本姿勢を示した。

達古武地域における保全・再生の優先対象地

